

20年目の歓喜を歌う

第11回 名水の里
第九 コンサート



黒部で第九を歌う会

Kurobe 20th
Symphony No. 9

黒部の第九20周年記念

【主催】黒部で第九を歌う会・(株)北日本新聞社・北日本放送(株)・(公財)黒部市国際文化センター 【共催】黒部市
【後援】黒部市教育委員会・黒部市芸術文化協会・黒部ライオンズクラブ・黒部ロータリークラブ・黒部中央ロータリークラブ
黒部で第九を歌う会事務局 黒部市三日市20 黒部市国際文化センター コラーレ内 Tel.0765-54-1339

Symphony No. 9

20年目の歓喜を歌う――

黒部の第九20周年記念
第11回 名水の里 第九コンサート

2013.5.19 SUN

| 会 場 | 黒部市国際文化センター コラーレ (カーターホール)

Program

曲 目 L.V.ベートーヴェン：序曲レオノーレ第3番 作品72

交響曲第九番ニ短調 作品125「合唱付」

指 揮 横島 勝人

管 弦 楽 富山シティフィルハーモニー管弦楽団

ソリスト 岩井 理花 (ソプラノ) 菅野 祥子 (アルト)

井ノ上 了吏 (テノール) 谷 友博 (バリトン)

合 唱 黒部で第九を歌う会合唱団

黒部で第九を歌う会会長

島倉 敏夫



ごあいさつ

黒部で第九を歌う会は1993年5月の初回コンサートからちょうど20年、節目の第九を歌う日を迎えました。それで今回は「黒部の第九20周年記念」としました。思い起こしますとこの20年は決して平坦な道のりではありませんでした。慣れは惰性とマンネリを招きます。前2回のモーツァルトレクイエム挑戦はよい葉でした。いま再び第九に戻って120名の団員は初心に返り新鮮なところで全身全霊をつくして「第九」を歌いあげます。

私たちが第九を歌う会をつくった狙いは、1. 地域の活性化、まちづくりの視点で地域おこしのイベントをつくりたい 2. クラシック音楽の愛好者同士の交流活性化 3. 地域文化活動へのささやかな貢献の3点でした。この20年の活動はこれらの狙いをどの程度達成できたかいさか疑問で内心忸怩たるものがあります。しかし近年のコンサートでは何よりも合唱団員とオーケストラの醸し出す第九やモツレクの音楽的空氣が800名余の聴衆の皆さまに怒涛のような波を与え、会場が一体となって感動の渦に浸ることができた、そんなことをコンサートごとに実感しています。これこそが私たちの会と合唱団の大きな成果ではないでしょうか。

私たちは「第九は全人類の友情と世界の平和を祈念する崇高な精神性を持つ音楽だ」という言葉を信じて今日まで歩んできました。顧みて20年は永い年月に聞こえませんがつい昨日のことのようでもあります。黒部の第九の歌声がいかかわりをもとより、広く県内の第九の歌声となり、これからも永遠に続くことを念願するものであります。

ご来場の皆さま、開催団体の皆さま、ご協賛いただいた皆さま、そして合唱団の皆さまにこころから感謝いたします。それでは「第九」をお楽しみください。

黒部市長

堀内 康男



お祝いのことば

黒部で第九を歌う会の「第11回名水の里 第九コンサート」がここ黒部市で盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、平素から本市の芸術文化活動推進にご尽力を賜っておりますことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

「黒部で第九を歌う会」は、新川地域の文化活動活性化を目指し、平成5年5月にYKK体育館で開催されました第1回のコンサートを始め、これまで10回のコンサートを開催され、このたび、会の20周年記念という節目のコンサートを迎えられました。120名の団員の皆様、心一つにして歌い上げる情熱と感動を多くの方々感じていただきたいとPRさせていただいているところであります。

また、世界的にご活躍されております指揮者の横島勝人様、声楽家の内山太一様には、ご丁寧な合唱のご指導をいただいております。市民レベルの草の根の活動でありますこの会の取り組みを成功に導いていただいておりますこと心から感謝申し上げます。

今回、ベートーヴェンの最後の交響曲とも呼ばれ記念碑的な大作である「交響曲第九番（合唱付）」に新たな思いで取り組まれますことを、市民挙げて大きな期待を寄せております。コンサートを契機に、さらに黒部市の芸術文化活動が発展していくことを期待しております。

結びに、このコンサートの大成功をご祈念申し上げますとともに「黒部で第九を歌う会」ならびに、長年ご支援、ご協力を賜っております関係団体、関係各位の皆様の一層のご発展と、団員の皆様のご健勝ご多幸を心からご祈念申し上げます。お祝いのことばといたします。

北日本新聞社代表取締役社長

板倉 均



ごあいさつ

「第11回名水の里第九コンサート」が、盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

自然豊かな名水の里に歓喜の歌声を響かせようと平成4年に「黒部で第九を歌う会」が設立され、翌・平成5年に第1回コンサートが開かれてから、20年が経ちました。

これまで、姉妹都市である米国・メーコン市、オランダ・スネーク市の両市民合唱団との共演や、難曲といわれるモーツァルトの「レクイエム」の演奏など、多彩なコンサートを企画され、大成功を収めてこられました。また、平成15年には、イラク戦争が勃発する中で、メーコン市で第九コンサートを開催、平和への思いを込めた歌声が、約1,000人の聴衆を魅了しました。「黒部で第九を歌う会」の20年の歩みは、県内の音楽文化に輝かしい足跡を残しておられます。

今回は、指揮者に横島勝人氏、ソリストに地元黒部出身の岩井理花さんら、精力的に活動されている国内トップクラスのアーティストを迎えられました。管弦楽は富山県を代表する市民オーケストラ、富山シティフィルハーモニー管弦楽団が担当されます。

本演奏会で第九を歌われる約120人の合唱団の皆さんは、昨年11月の結団式以来、6か月にわたり厳しい練習を積み重ねてこられました。本日は、その成果を発揮され、オーケストラ、ソリストと一体となった歓喜のハーモニーが高らかに響き渡るものと期待いたします。

「黒部で第九を歌う会」はじめ、関係の皆様のご尽力に敬意を表しますとともに、本演奏会のご成功をお祈り申し上げます。

北日本放送代表取締役社長

横山 哲夫



ごあいさつ

「黒部で第九を歌う会」が1993年に第1回コンサートを開催してから今年で20年の節目を迎えました。心からお喜び申し上げますとともに、会を支えてこられた関係者のもとより、熱意と親しみをもって同会を見守ってこられた市民のみなさまに敬意を表します。

今回は、過去2回にわたり挑戦したモーツァルトの「レクイエム」の経験を生かしつつ再び「第九」に戻りました。ステップアップした合唱が、会場に響き渡ることでしょう。

120名に及ぶ合唱団のみなさんは、去年11月の結団以来、厳しい練習を積み重ねてこられました。

きょうは、すっかりお馴染みになった指揮者横島勝人さんのタクトのもと、地元黒部市出身の岩井理花さんら4人のソリスト、富山シティフィルハーモニーが奏でる管弦楽とともに、歓喜の合唱がコーラーレのホールいっぱいにハーモニーを響かせることと思います。

終わりに、開催にあたり、ご支援をいただいた黒部市をはじめ関係各位に心より御礼申し上げます。

指揮者 横島 勝人

Katsuto Yokoshima

大阪音楽大学卒。ウィーン国立音楽大学でL.ハーガー、P.シュヴァルト、湯浅勇治各氏に師事。1998年コンドラシン指揮者コンクール、セミ・ファイナリスト。1999年ウィーン・トーンクンストラー響を指揮。2001年、ウィーン郊外でハイドン：「天地創造」、2003年ブラハ放送交響楽団を指揮。2005年ライブツィヒで「バッハ：ロ短調ミサ」と「第九」を指揮。2006年ウィーンとブラハでモーツァルト：「レクイエム・ガラ」を指揮、絶賛を博す。2000年より3年間小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトアシスタント及び合唱指揮。2008年3月長野県松本市においてモーツァルトの交響曲全52曲を10年かけて演奏する「モーツァルト交響曲・全曲演奏会」が結成され芸術監督に就任、現在松本モーツァルト・オーケストラの指揮者を務めている。2009年2月、紀尾井シンフォニエッタ東京第68回定期演奏会にてメンデルスゾーン：エリアの合唱指揮（合唱：東京オペラシンガーズ）。2009年「国境なき合唱団」ベルリン公演でベルリン・シンフォニエッタを指揮して「第九」を演奏、2011年6月にはブラハで同合唱団と、引き続いてライブツィヒでそれぞれ「第九」を指揮。2013年1月、大阪フィルを指揮。

これまでに指揮したオーケストラ

- ・ハンガリー国立セグド交響楽団
- ・マーフ・ブダペスト交響楽団
- ・オランダ放送管弦楽団
- ・新日本フィルハーモニー交響楽団
- ・東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
- ・大阪センチュリー交響楽団（現・日本センチュリー交響楽団）
- ・岡山フィルハーモニック管弦楽団
- ・広島交響楽団
- ・関西フィルハーモニー管弦楽団
- ・京都市交響楽団
- ・奈良フィルハーモニー管弦楽団
- ・東京佼成ウインドオーケストラ
- ・大阪市音楽団 他

Photo : Masashige Ogata

Solist



岩井 理花 ソプラノ

Rika Iwai

黒部市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科および同大学院修了。第54回日本音楽コンクール、ティト・スキューバ国際声楽コンクール、第1回藤沢オペラコンクール等、国内外の数々のコンクールに入賞。ミラノから帰国後は日本を代表する指揮者（小澤征爾、故若杉弘、大野和士、故朝比奈隆etc.）と数多くのオペラやコンサートに出演し、成功を取っている。モーツァルトからヴェルディ、ワーグナーに至るまで幅広いレパートリーをこなす。「ワルキューレ」のジークリンデ、「マダム・バタフライ」のタイトルロール等で評価され、1995年ジロー・オペラ賞を受賞。最近ではヴェルディ「マクベス」のレディー役で大成功を取る。コンサートでは「第九」「メサイヤ」をはじめ、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレ、ブラームスの各レクイエムのソリストとして、またNHK芸術劇場、題名のない音楽会、NHKFMクラシック、名曲アルバム等にも出演し放送されている。北日本新聞芸術奨励賞受賞。新川地区発展賞奨励賞を受賞。二期会会員。

Shoko Kanno

アルト 菅野 祥子



岩手県陸前高田市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科を経て、ウィーン大学に留学。音楽学を専攻する。声楽をオルガ・ワラ・コロ、クルト・ヴィトマーの各氏に、リート・オラトリオをワルター・モーア氏に師事。チェコ・ブラハ国立歌劇場で蝶々夫人のスズキ役、カルメンのメルセデス役でオペラ出演。パリのユネスコ本部にてサンクトペテルブルク建都300周年記念音楽祭、ボスニア民俗音楽祭に出演。

ウィーン・ベートーヴェン記念館、イギリス・ケンブリッジ大学にてリサイタル、ローマオペラフェスティバルなどに出演。ボスニア・バニャルカ市庁舎ホールでのソロコンサートの模様はボスニア全土にテレビ・ラジオ放送され大変好評を得る。その他ヨーロッパ各地でコンサートを行い、その豊かな経験と日本の繊細さが絶妙に融合された表現は、人々の内なる世界に深く触れると高く評価される。

毎年日本でリサイタルと同時に、小中学校や老人ホームにてミニコンサートを行うことが恒例となっている。またベートーヴェンの「第九」やモーツァルトの「レクイエム」のソリストを務める。友愛ドイツ歌曲コンクール学生部門第2位入賞。ルイージ・ストラメージ国際声楽コンクール（イタリア）のオペレッタ部門第2位入賞。現在、ウィーン少年合唱団のボイストレーナーを務める。

井ノ上 了更 テノール

Ryofji Inoue

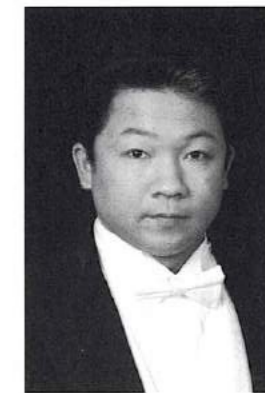


写真：渡辺佳代

国立音楽大学卒業。東京文化会館推薦オーディション合格。日伊コンクール、日本声楽コンクール、東京国際コンクール、イタリア声楽コンクール他、入賞多数。1991年イタリアへ留学、イタリア各地でコンサートに多数出演。パドヴァ国際コンクール、パグリア国際コンクール入賞。1995年帰国、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオ、「コシ・ファン・トゥッテ」フェランド、「ファルスタッフ」フェントン、「こうもり」アルフレード、「蝶々夫人」ピンカートン、「トスカ」カヴァラドッシ、「椿姫」アルフレード、「カルメン」ドン・ホセ、「ラ・ボエーム」ロドルフォ、他、二期会、新国立劇場公演などで活躍。ベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」など国内主要オーケストラとも共演多数。2006年イタリアのポローニャにてコンサート、11年レカナテ市にて「ベニアミーノ・ジューリ記念コンサート」に出演。NHK「FMリサイタル」、テレビ朝日「題名のない音楽会21」等にも度々登場。2013年には二期会創立60周年オペラ「マクベス」に出演。東京音楽大学及び大学院客員准教授、国立音楽大学非常勤講師、二期会オペラスタジオ講師、二期会会員、日本演奏連盟会員。

Tomohiro Tani

バリトン 谷 友博



武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。1995年渡伊。第4回ピストイア・コンクール・オペラ部門第1位（イタリア）。第5回リニャーノ国際声楽コンクール第2位（イタリア）。第35回日伊声楽コンクール第1位。第68回日本音楽コンクール声楽部門（オペラ）第1位、併せて特別賞受賞。他、受賞歴多数。稲葉祐三、菊池初美、L.サッコマニ、A.モナコ、R.エリー、横山修司、D.マツォーラの諸氏に師事。1995年、研鑽の傍らスロヴェニアのマリボル国立歌劇場で「ランメルモールのルチア」エンリーコ役、「セヴィリアの理髪師」フィガロ役として出演。ミラノ、ピストイアなどイタリア各地で「セヴィリアの理髪師」「愛の妙薬」「ドン・パスクアーレ」「椿姫」「カヴァレリア・ルスティカーナ」など、いずれも主要役で出演。他、数々のオペラ、ガラ・コンサート等に出演。日本では1999年、藤原歌劇団にて「ラ・ボエーム」ショナール役で本格的オペラデビュー。2002年に「ラ・トラヴィアータ（椿姫）」のドビニー役を経て、2003年にはジェルモン役に抜擢され絶賛を博す。新国立劇場では2000年ヴェルディ「リゴレット」マルッコ役でデビューし、その後も「ラ・ボエーム」「トスカ」「椿姫」「カルメン」「黒船」「夕鶴」等の出演が続いている。他、「第九」「メサイヤ」「カルミナ・ブラーナ」等のソリストやNHKニューイヤーオペラコンサートにも出演。藤原歌劇団団員、武蔵野音楽大学講師、東京藝術大学講師。

お祝いのことば

横島 勝人



黒部で第九を歌う会20周年をお祝い申し上げます。今回が11回目で会設立20年に当たるとお聞きして、そのような歴史を重ねて今日を迎えられたことに深く敬意を表します。

私が縁あって黒部のコンサート指揮者を務めて4回目となりますが、今回は取り組む気持ちが違う気がします。黒部の合唱団員にも20年の節目の第九をしっかり歌おうという心意気が見えますので、私も合唱指導をしながらその気持ちを大切に「合唱団と一緒に音楽をつくる」そんな気持ちで臨んでいます。

黒部での指揮初回にわかったこと、それはこの合唱団は国内のアマチュア合唱団の中でも音楽的に良いレベルにあることです。それでもう一段高めるために第九から一旦離れてモーツァルト・レクイエムを歌うことをお勧めしました。第九は「合唱付」ですがモツレクは合唱曲ですからよりハーモニーが大切です。今回はレクイエムの経験がどのような効果となってあらわれるか興味を持って今日の本番を迎えます。「第九」はどちらかといえばメロディーの音楽ですが、モツレクを経験してこの合唱団にはハーモニーを作る力がついています。それを十分に発揮する訓練が行き届いていると信じています。練習会の回ごとに声のまとまりが出来てきてバランスも良くなり盛り上がりが出てきました。20周年のお祝いにふさわしい音楽を来場者の皆さんにもお届けできると期待しています。

「第九」は日本では年末ですが、ヨーロッパでは節目のお祝いに演奏されます。人間に生きる勇気を与えてくれるのがこの音楽です。

国内では地方にも良いホールが増えました。地域活性化に熱心な人々も多いです。皆さんにはこの「第九」は地域社会の財産だとご理解されて、今後もご支援下さることを私からもお願い申し上げますお祝いの言葉といたします。

黒部の第九に寄せる想い

志井理花



今から20年前の5月、YKKの体育館を借りてピアノ10台、ピアニスト20人の連弾により、土井浩先生の指揮のもと「黒部の第九」は産声を上げました。第1回よりソリストとして参加させていただいてきた私としては正に感無量です。黒部の第九は一般の第九と一味異なり、手作りの様な温もりを感じさせてくれるものでした。姉妹都市であるメーコン市やスネーク市から合唱団をお招きして、第九を通して国際交流を心がけてまいりました。何日もホームステイをし、共に歓喜の歌を歌うことで、黒部の街と人柄の素晴らしさを体感していただけたことと思います。私達もメーコン市まで第九を歌いに行きました。ちょうどイラク戦争が今日から始まるという、その日に…。でも皆さんの第九を歌うことへのエネルギーは素晴らしく明るいもので、戦争の暗さや不安を少しも感じさせませんでした。20年を振り返ると色々な思い出が甦ってまいります。沢山の方々の支えがあって今日、立派に成人式を迎えることが出来るのです。何人かの御恩のある方も他界されましたが、きっと今日のコンサートには天から聴きに見えて応援して下さいていることと思います。今年はヴェルディとワーグナーの生誕200年という記念の年ですが、あのワーグナーでさえ挫折しそうになった時、ベートーヴェンの音楽のエネルギーで甦ったと聞きます。とても厳しい中に人間への愛が溢れた輝かしい音楽です。第九で結ばれた強い絆がいつまでも続きますよう、ますますのご発展をお祈りしています。

20年の歓喜 | 団員メッセージ

大田ゆか子 (ソプラノ)

「一流の指揮者・ソリスト・オーケストラの下で多くの仲間と共に歌いたい。」黒部で第九を歌う会がまだ発足していない頃、第九コンサートを聴きながらそう思いました。20年前「黒部で第九を歌う会」が結成されてその夢が叶いました。それ以来歌い続けています。「第九」って本当に高音で息を長く必要とする苦しい曲ですよ。毎回の練習で新たな発見をし、如何に楽に高音を長く保てるかに挑戦しています。歌う会の一人ひとりが自分の為だけに指揮・伴奏をされているような不思議な感覚になり、本番だけにしか出ない声が出たりします。回を重ねる度に素晴らしくなっていく世界の愛唱歌「第九」を今回も声高らかに楽しんで歌わせて頂きます。みなさん聴いてください。

中田 勝代 (アルト)

この20年間でいまま印象に残っているのは初回コンサートです。こういうコンサートが黒部でもできるのかと大変うれしかったことをいま思い出しています。黒部の第九のどの回でも私は歌った記憶よりも世話役を務めた思い出が多いのです。よくここまで皆さんと一緒に進んでくることができたと懐かしく思っています。そして第九は、やはり歌ってすばらしいけれど、決して簡単な曲ではないといつも思うことしきりです。

松倉 正機 (テナー)

平成3年(1991年)11月23日、東京サントリーホールでケルン放送交響楽団マーラー・チクルスの最終日、「巨人」の演奏終了後、拍手は収まる気配もなく、楽団員が退席した後も指揮者ベルティニーニを何度もカーテンコール…という感動のシーンを目の当たりにしました。このようなことは、クラシック音楽の演奏会では異例で、当時の新聞紙上を大いに賑わしたものでした。

翌日、黒部への帰路のJR車内で、島倉敏夫YKK常務の「黒部で第九をやれないものかな」という問い掛けに、前夜の興奮覚め遣らぬ参加者8名全員が諸手を挙げて賛成し、それが平成4年6月30日の発会式へ、そして平成5年5月30日、YKK体育館での第1回コンサートへと繋がっていくのです。

大野 久芳 (テナー)

1993年、「一念発起」からピアノ10台で20人による連弾で始まった「第九コンサート」。目出度く20周年の時を刻み、11回目を迎えた今、初回から参加している私にとり、大変感慨深いものがあります。「第九」の合唱は心をつなげる仲間が取り組む中に、歓喜と感動があります。今日迄、幅広く市民とファンと合唱団、そして多くの関係者に支えられてステージが創られてきたことに心から感謝しつつ、発会20周年を力強く高らかに歌い上げたいと張り切っています。

長谷川光一 (バス)

いまから20年も前のある日、黒部青年会議所での話。黒部で第九コンサートが計画されている。第九とは何か知らないがそれに参加しようじゃないかという声が上がった。ちょうど黒部に音楽ホールのある会館をつくってほしいと市に要望を出した頃のことである。市からはハコが出来てもそれを使いこなすイベントがなければだめだと言われていた。合唱とは無縁の若者たちがまちづくりに参加するくらいの気持ちだったのである。初めて歌うJCメンバーが武藤憲夫先生宅で第九の特訓を受けたのも懐かしい思い出。そうして本番を迎えた。歌ってみると不思議なものだ。大勢で歌うと元気が出る。一体感が醸し出される。合唱の体験は仲間を増やし人間の力を感じることに繋がった。第九は不思議な魔力を持っている。

Program Note 曲目解説

交響曲第九番ニ短調
作品125「合唱付」

ベートーヴェン最後の交響曲は、ロンドンのフィルハーモニー協会から新曲の依頼を受けて1822年10月から書き始められ1824年にはほぼ完成していた。並行して作曲された第七番、第八番から10年後のことである。当時としては類を見ない長さで、声楽を伴うという異例の曲であった。第4楽章の歌詞となるシラーの詩をベートーヴェンが知ったのは1792年、彼が22歳の頃である。実に構想30年となる。

さて、完成したこの交響曲は1824年5月7日にウィーンのケルトナートーア劇場（現在のウィーン国立歌劇場の前身）で初演された。耳の聞こえないベートーヴェンが舞台で総指揮をしたものの、実際の指揮は楽長のウムフラウが担当した。終演後、嵐のような喝采が起こったがベートーヴェンは気付かない。アルト歌手のウンガーが客席の方に向け、ようやくその大成功に気付いたという有名なエピソードが残されている。

彼の死後、メンデルスゾーンやベルリオーズ、リスト、ワーグナー、マーラーらの大作曲家や、トスカニーニ、フルトヴェングラー、ワルター、カラヤン、バーンスタインらの大指揮者がこの曲の伝道師として、この曲に確固たる地位を与えていった。そして、今では、この曲はいろいろな機会に演奏されている。日本のように大晦日に演奏される場合もあれば、新年に演奏される国もある。祝祭の曲（パイロイト音楽祭の再開記念やベルリンフィルハーモニーの新しいホールの落成記念で演奏された）として演奏されたり、鎮魂の曲（東日本大震災のチャリティコンサートで演奏された）として演奏されたりもする。このような懐の深さをもつ曲は他に存在しないのではないだろうか。

2001年9月4日、ベルリン国立図書館が所蔵する、かつてプロイセン国王に献上された「第九」の楽譜が、ユネスコの世界遺産の「世界の記録」部門に指定された。かくして「第九」は文字通り人類の遺産になったのである。

◆第1楽章 Allegro ma non troppo un poco maestoso

ソナタ形式をとるこの楽章は、神秘的な導入部に閃光のような第1主題が続く。美しい第2主題も交えながら、大きなスケールで展開していく。

◆第2楽章 Molto vivace

オクターブに調律されたティンパニが活躍する熱狂的な三部形式のスケルツォ。中間部は一転して、牧歌的な気分になる。その後スケルツォ部に戻り、狂乱のうちに楽章を閉じる。

◆第3楽章 Adagio molto e cantabile

ベートーヴェンが書いたもっとも崇高な音楽といえるこの楽章は変奏曲の形式をとっている。安らかな音楽が続く中、突然最後の審判を告げるラッパのファンファーレが鳴り響く。続く楽章への前ぶれなのだろうか。

◆第4楽章 Prest-Allegro assai

不協和音からなる導入部に続く低弦のレチタティーボが前の3つの楽章の主題を否定して歓喜の主題を導く。曲が盛り上がったところで、再び導入の不協和音が登場して、バリトンのソロが「おお、友よ、この調ではなく」と切り出し、シラーの詩を合唱とともに歌い上げていく。いったん静まったあと、行進曲となり、今度はテナーのソロがリードする。その後「抱き合おう、もろびとよ」と厳かな合唱部分を経て、最大のクライマックスである二重フーガが出現する。コーダは速度を上げ、プレスティッシモで結ばれる。



「交響曲第九番」が初演された、ウィーンのケルトナートーア劇場。

序曲レオノーレ第3番 作品72

「ロッシェニは一つの序曲でオペラを4つ作っているが、ベートーヴェンは一つのオペラのために4つの序曲を書いた。」シューマンは歌劇「フィデリオ」のための4つの序曲についてかくのごとく語っている。

この曲はベートーヴェンの歌劇「フィデリオ」のために書かれた4曲の序曲のうちのひとつである。

そのストーリーを簡単に紹介すると、

スペインの州監獄の長官ピッツァロから恨みを受けた貴族フロレスタンは土牢の中に捕らえられ、やがて死刑を宣告される。フロレスタンの妻レオノーレはフィデリオという名の男性に変装して、牢番ロッコの下で働きつつ夫を助けに行く機会をうかがっている。ピッツァロの横暴について大臣が視察にくることを知ったピッツァロは、証拠隠滅のためフロレスタン殺害を計画し、暗い牢でフロレスタンを刺そうとするとフィデリオが立ちふさがる。ピッツァロが2人と争っている時トランペットのファンファーレに乗って大臣が到着し2人は助かり、ピッツァロは裁かれて罰を受けることになる。

歌劇「フィデリオ」は真実の夫婦愛が悪に打ち勝つ物語である。

ベートーヴェンは、結婚を極めて神聖なものとしてとらえていたが、生涯伴侶に恵まれることはなかった。また、このオペラは当時としては音楽的に難しいもので、歌手たちから改作が要求されていたが、ベートーヴェンはそれを拒否し上演にこぎつけたにもかかわらず、散々な不入りで失敗に終わった。

この序曲「レオノーレ」第3番は、初演翌年1806年の再演のために新たに作られたもので、牢獄へと降りていく様子を表す冒頭の下降音階や、続くクラリネットとファゴットが奏でるフロレスタンが獄内で歌うアリア、フロレスタンの無事に感謝するレオノーレの歌など、この序曲では「フィデリオ」で歌われるメロディが各所で聞こえてくる。現在最も美しい序曲のひとつとして知られるこの曲も、当時は進歩的過ぎて無秩序で雑然とした音楽と受け取られてしまったようである。

この8年後の1814年に歌劇「フィデリオ」は第3稿に改作され再演されることになるが、ようやく長い間一般から理解されなかった歌劇「フィデリオ」は大成功を取ることとなる。そして、プラハやベルリンでも上演されることとなり、歌劇「フィデリオ」は、ドイツオペラの最も重要なレパートリーのひとつとなった。

このオペラの上演の際は、4番目に作曲された「フィデリオ」序曲が冒頭に演奏され、この曲は現在では演奏会序曲として、オーケストラのコンサートなどで演奏されることが多い。



ウィーン中央墓地にあるベートーヴェンの墓

歓喜の歌

《ベートーヴェンの自作》

おお、友よ、この音楽ではない。
もっところよ、
もっと喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなでよる。

《F. シラー原詩》

喜びよ、美しい神々の火花よ、至福の島のエリージウムの娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしがきびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、すべての人びとは
おまえのやさしい翼のやすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる大きな成功を得たものは、
やさしい妻をかち得たものは地上にただ一つの魂でも
自分のものと呼びうる者は、その歓喜をともにせよ。
そしてそれらができなかった者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。

すべてのものは自然の乳房から喜びを飲む。

すべての善いものも、すべての悪いものも、

自然のバラ色の道を辿ってゆく。自然はわれわれに接吻を与え、

ふどと、死の試を経た友を与えた。快楽は虫に与えられた。

そして光の天使ケルプは神の前に立つ。うれし気にひかりかがやく太陽が

壮麗な天界をわたるように、兄弟たちよ、

英雄が勝利に向かってすすむように、きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万のひとびとよ、抱き合え。この接吻を、全世界へ。

天空のあなたに愛する父が住んでいるにちがいない。

きみたちはひざまづくか、

数百万のひとびとよ。

創造主に気付くか、世界よ。

天空のあなたに創造主を求めよ。

星の彼方に彼は住んでいるに違いない。

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen, und freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem Erdenrund!

Und wer's nie gekonnt, der stehle.
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen, an den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen, fliegen durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet! Brüder, eure Bahn, freudig, wie ein Held zum Siegn.

Seid umschlungen, Millionen! Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! überm Sternenzelt muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such'ihn überm Sternenzelt!

Über Sternen muß er wohnen.

富山シティフィルハーモニー管弦楽団



1983年結成。県民に愛されるオーケストラを目指して音楽活動を展開している。
団員は現在約100名で、週1回の練習には県内一円から活動拠点の富山市民芸術創造センターに集まってくる。
団員の平均年齢は30代で家庭においては育児に手が掛かる人も多いため、練習の際には託児室を設けて活動をサポートしている。
活動は、定期演奏会をはじめとして年3〜4回の演奏会を行っており、毎週末の練習への団員の参加率は非常に高い。
平成24年に富山県が制作した久石譲作曲の「ふるさと空」のCD録音では、管弦楽版の演奏を担当した。

メンバー

1st Violin	宮本 範子 (コンサートマスター) 浅谷 朱音 名執 純子	阿閉 博美 廣田 弘美	黒田 悠莉 又場 龍大	田中 緑 又場 美香	辻 久直 松下 タエ	仲井 美賀 松村 司
2nd Violin	朝木 晴美 原 朝子	荒木 祐士 松下 亮	久保麻美子 吉澤 歩希	塩崎 章子 吉澤 真弓	高野 祐花 米丘 博	沼田 典子 米沢由佳子
Viola	大森 祐子 前川 仁志	久保悠希乃 松島真二郎	篠原美奈子 安村 美佳	清水 淑恵 高田 亮二	高田 亮二 藤井 優哉	
Cello	岡田 彰 堀田 五月	島田 育子 松岡 邦幸	島田 一恵 松島健一郎	新町 栄一 村岡 央基	西谷 英輔 廣田 弘毅	
Contrabass	荒木亜寿美	長谷 英寿	藤島 晃彦	柳橋 禎子	吉澤 克仁	
Flute	伊藤ひでみ	摺出寺敬子	竹森 恵美	吉澤美和子		
Oboe	北岡 明	小林 美穂	保科 浩一			
Clarinet	大田 昌子	佐々木桂治	古川 友紀	横井 省二		
Fagotto	牛嶋 裕	岡田 健太	篠崎 秀一			
Horn	上野 祐子	川添 等	坂井 禎	宅美 俊史	野崎 美保	安川 哲二
Trumpet	荒野 晃代	古井 清紀	横越 充			
Trombone	大田 昭男	熊木 雅之	沼田 典明			
Percussion	女川 好野	塩田 惇	高本 篤志	花房 清直		

Chorus 黒部で第九を歌う会合唱団

ソプラノ 魚津 昭子 魚谷 洋子 大田ゆか子 小熊 房江 音頭万里子 角本 睦子
兼平 朋子 川尻久美子 君島 良子 桐 富子 響田奈々子 小島 好子
坂本 利子 杉澤 禎子 千先まさ枝 高見 玲子 寺島 紀子 長崎 絹恵
中島 弘美 長田 雅子 能沢 一代 晴被 富子 藤田 弘美 淵上 聖子
古川 鶴美 松尾美恵子 三浦 博子 水島沙奈恵 三井 香 村田美紀子
33 村椿 尚美 森山 静子 吉見 靖子

アルト 相川 礼子 朝田美尾子 朝野 淳子 飯田 智子 泉 邦子 生津江昭子
稲場千恵子 岩井 清美 太田美恵子 大坪由美子 荻野 敦子 金坂千位子
岸上七百子 黒崎 洋子 五井 礼子 小坂 里香 小林 聖子 近藤外喜子
鮫澤由加利 沢泉 好美 篠崎富美子 島瀬 節子 鈴木 伸子 竹内美和子
立野 富子 塚田実知代 道用 悦子 得能真智子 中坂 陽子 中田 勝代
花岡 光子 前田 ふさ 松村美智代 湊屋真津代 村瀬 靖子 森 直子
40 森内 孝子 安原 麗子 山崎 陽子 山瀬由美子

テナー 井内 学 石川 幹夫 伊東 景治 植木 真人 上田 洋一 太田 絃子
大野 久芳 木村 悦郎 田中 哲彦 南保 弘幸 八川 進 広田 克美
広野 誠 福島 光繁 福田 茂信 藤田 信幸 舟川 正範 松倉 正機
21 宮崎 昌訓 米沢 良 米澤憲二郎

バス 青木 修平 飯田 憲司 泉 増久 島倉 敏夫 鈴木 富保 高橋 興一
田中 義郎 中 毅士 中坪 政二 長谷川光一 藤井 実 松谷 茂樹
武藤 泉 武藤 憲夫 八木 拡道 米田 幹雄 米田隆太郎

112. 18 Lachapelle Ugo Jose

合唱指導 内山 太一

合唱ピアノ伴奏 稲生亜沙子

協力合唱団 黒部混声合唱会 入善混声合唱団 カンターレ コールあい
コーラスHANA パッハアンサンブル富山 ホールデコーラス 合唱団おおやま
東京合唱団 水無月

黒部で第九を歌う会役員

| 会 長 | 島倉 敏夫
| 副 会 長 | 松倉 正機 上田 洋一 篠崎 秀一(富山シティフィル) 三井 適夫
| 理 事 | 石川 幹夫 伊東 景治 岩井 清美 杉澤 禎子 高岡 尚子
辻 和夫 中田 勝代 能登 恭子 広野 誠 前田 ふさ
山口 正人
| 監 事 | 南保 弘幸 鮫澤 祐二((公財)黒部市国際文化センター事務局長)
| 顧 問 | 堀内 康男 宮腰 光寛 大野 久芳 横山 栄 能勢 実
武藤 憲夫 三井 香

黒部第九友の会会員

朝 田 美尾子 第九を歌う会	篠 崎 秀 一 第九を歌う会副会長	晴 被 富 子 第九を歌う会
石 川 幹 夫 第九を歌う会理事	島 倉 敏 夫 第九を歌う会会長	福 島 光 繁 第九を歌う会
伊 東 景 治 第九を歌う会理事	島 瀬 節 子 第九を歌う会	藤 田 信 幸 第九を歌う会
岩 井 恵 澄 (福あい七福社理事)	杉 澤 禎 子 第九を歌う会理事	前 田 ふ さ 第九を歌う会理事
岩 井 清 美 第九を歌う会理事	高 岡 尚 子 第九を歌う会理事	松 村 美 智 代 第九を歌う会
植 木 真 人 第九を歌う会	塚 田 実 知 代 第九を歌う会	三 井 香 第九を歌う会顧問
上 田 とよ子 川崎市	辻 和 夫 第九を歌う会理事	湊 屋 真 津 代 第九を歌う会
上 田 洋 一 第九を歌う会副会長	得 能 真 智 子 第九を歌う会	宮 崎 昌 訓 第九を歌う会
魚 津 昭 子 第九を歌う会	中 島 弘 美 第九を歌う会	村 瀬 靖 子 第九を歌う会
大 坪 由 美 子 第九を歌う会	中 田 勝 代 第九を歌う会理事	村 田 美 紀 子 第九を歌う会
亀 谷 やす子 第九を歌う会	長 田 雅 子 第九を歌う会	森 内 孝 子 第九を歌う会
川 尻 久 美 子 第九を歌う会	中 坪 政 二 第九を歌う会	森 山 静 子 第九を歌う会
岸 上 七 百 子 第九を歌う会	南 保 弘 幸 第九を歌う会監事	安 原 麗 子 第九を歌う会
小 島 好 子 第九を歌う会	能 沢 一 代 第九を歌う会	山 瀬 由 美 子 第九を歌う会
近 藤 外 喜 子 第九を歌う会	野 原 玲 川崎市	米 沢 良 第九を歌う会
鮫 澤 由 加 利 第九を歌う会	花 岡 光 子 第九を歌う会	米 田 幹 雄 第九を歌う会

(五十音順・敬称略)



黒部で第九を歌う会 20年の軌跡・コンサート開催実績

設立：1992年（平成4）6月30日

開催日	場所	合唱団員	指揮者・ソリスト	オーケストラ	開催テーマ
第1回 1993年 H5.5.30	YKK体育館	第九を歌う会 189名	土井 浩 岩井 理花 岩森 美里 福井 敬 高橋 啓三	国際ピアノデュオ協会 20名	"名水の里に響け！ 喜びのハーモニー"
第2回 1994年 H6.6.12	YKK体育館	第九を歌う会 155名	ラヨシュ・パログ 岩井 理花 岩森 美里 五十嵐 修 高橋 啓三	富山県青少年オーケストラ・メトロポリタン・ユースシンフォニー	国際交流音楽祭 黒部市制40周年記念 (カラーレオープンイベント)
第3回 1996年 H8.1.14	コラーレ	第九を歌う会 138名 メーコン市民合唱団 16名	十束 高宏 岩井 理花 岩森 美里 五十嵐 修 高橋 啓三	東京シティ・フィル ハーモニック管弦楽団	国際交流音楽祭 (カラーレオープニングイベント)
第4回 1997年 H9.2.9	コラーレ	第九を歌う会 137名 スネーク市民合唱団 16名	十束 高宏 岩井 理花 青山智英子 成田 勝美 高橋 啓三	東京シティ・フィル ハーモニック管弦楽団	国際交流音楽祭
第5回 1998年 H10.4.18	コラーレ	第九を歌う会 135名 メーコン市民合唱団 16名	十束 高宏 岩井 理花 永井 和子 五十嵐 修 勝部 太	群馬交響楽団	くるべ「はな」まつり 国際交流音楽祭
第6回 2002年 H14.1.14	コラーレ	第九を歌う会 115名	エドヴァン・ナム 岩井 理花 安念千重子 五十嵐 修 大澤 建	富山シティフィルハー モニーマニーマニ管弦楽団	国際交流音楽祭
米国 メーコン市 特別公演 2003年 H15.3.22	米国 メーコン グランドオペラハウス	メーコン市民合唱団 第九を歌う会 37名	エドヴァン・ナム 岩井 理花 メーコン・ソリスト	メーコンシンフォニー オーケストラ	黒部市メーコン市姉妹都市交流 Macon cherry blossom festival
第7回 2004年 H16.11.7	コラーレ	第九を歌う会 119名 スネーク市民合唱団 8名 根室市 2名	エドヴァン・ナム 岩井 理花 坂口 直子 五十嵐 修 末吉 利行	富山シティフィルハー モニーマニーマニ管弦楽団	黒部市制50周年記念 北日本新聞創刊120周年記念
第8回 2006年 H18.12.17	コラーレ	第九を歌う会 115名	横島 勝人 岩井 理花 坂口 直子 伊達 英二 水野 賢司	富山シティフィルハー モニーマニーマニ管弦楽団 合唱指導：浅岡節夫・三井香	黒部市合併記念事業
第9回 2008年 H20.12.14	コラーレ	第九を歌う会 モツレク合唱団 115名	横島 勝人 岩井 理花 長谷川 忍 西村 悟 谷 友博	富山シティフィルハー モニーマニーマニ管弦楽団 合唱指導：内山太一	モーツァルトレクイエム特別公演
第10回 2010年 H22.11.28	コラーレ	第九を歌う会 モツレク合唱団 108名	横島 勝人 岩井 理花 日野 妙果 内山 信吾 谷 友博	富山シティフィルハー モニーマニーマニ管弦楽団 合唱指導：内山太一	モーツァルトレクイエム特別公演 第10回記念コンサート
第11回 2013年 H25.5.19	コラーレ	第九を歌う会 120名(予定)	横島 勝人 岩井 理花 菅野 祥子 井ノ上 了 谷 友博	富山シティフィルハー モニーマニーマニ管弦楽団 合唱指導：内山太一	黒部の第九 20周年記念コンサート

1993年

第1回名水の里第九コンサート 新聞掲載記事・チラシ

北日本新聞 新聞

10台のピアノが伴奏し、県東部で初めて開かれた第九コンサート＝黒部市・YKK体育館



「黒部で第九を歌う会」千八百人の聴衆が会場に詰め掛けた。第一回演奏会「名水の里第九コンサート」(北日本新聞社など主催)が二十日、黒部市のYKK体育館で開かれ、ピアノ十台による四手オクターブをバックにした合唱団の歌声が高らかに響きわたった。子供からお年寄りまで二人の主題による愛楽曲」を披露した。

続いて岩井理花さん(ソプラノ)、岩森美里さん(アール)、高橋啓三さん(テノール)が、ベートーヴェン「第九」のソリストを務めた。高橋啓三さん(テノール)が、ベートーヴェン「第九」のソリストを務めた。高橋啓三さん(テノール)が、ベートーヴェン「第九」のソリストを務めた。

「黒部市第九を歌う会」千八百人の聴衆が会場に詰め掛けた。第一回演奏会「名水の里第九コンサート」(北日本新聞社など主催)が二十日、黒部市のYKK体育館で開かれ、ピアノ十台による四手オクターブをバックにした合唱団の歌声が高らかに響きわたった。子供からお年寄りまで二人の主題による愛楽曲」を披露した。

続いて岩井理花さん(ソプラノ)、岩森美里さん(アール)、高橋啓三さん(テノール)が、ベートーヴェン「第九」のソリストを務めた。高橋啓三さん(テノール)が、ベートーヴェン「第九」のソリストを務めた。高橋啓三さん(テノール)が、ベートーヴェン「第九」のソリストを務めた。

歓喜のハーモニー

名水の里に響け!! 歓喜のハーモニー '93
第1回「黒部で第九を歌う会」演奏会
ピアノ10台ピアノ20人と250人の合唱による
名水の里第九コンサート

【開演午後2:00】
YKK体育館

入場料 1,000

ソプラノ 岩井 理花
アール 岩森 美里
テノール 高橋 啓三

ソプラノ 岩井 理花
アール 岩森 美里
テノール 高橋 啓三

1993年(平成5年)5月31日月曜日掲載

県東部初の第九コンサートは、大きな感動の渦の中、幕を閉じた。

皆さまのあたたかいご支援により、
第九コンサートを開催することができました。

(株)四十物昆布
生地温泉たなかや
生地蒲鉾(有)
(株)植万
うめかわ歯科クリニック
(株)エムエスピー
おおの衣料店
小熊歯科医院
女川歯科医院
(有)カーメンテナンス朝倉
カフェ モーツァルト

共和土木(株)
銀盤酒造(株)
黒部市芸術文化協会
(株)黒部重機
黒部中央ロータリークラブ
黒部ロータリークラブ
桜井建設(株)
桜井交通(株)
(有)新徳興業
東洋ゼンマイ(株)
(株)ナカノ

パレス扇寿
(株)飯作組
平野工務店(株)
北星ゴム工業(株)
(株)ホテルアクア黒部
(株)堀内商会
松原工業(有)
皇国晴酒造(株)
(有)宮腰工業所
(株)吉田商会

川端鐵工(株)
黒部市生地芦区247 ☎0765-56-8163

黒部クリーン(株)
黒部市北野47-2 ☎0765-52-0047

菅野印刷興業株式会社
黒部市若栗2630 ☎0765-54-0112

装苑ひろの
黒部市新牧野311(メルシー内) ☎0765-54-1203

入善混声合唱団

(有)松倉呉服店
黒部市三日市3117 ☎0765-54-0529

丸中水産(株)
黒部市生地芦崎字下浦330 ☎0765-56-9138

(株)ミツイ
黒部市中新398 ☎0765-52-0092

(株)山口技研
入善町道古183 ☎0765-72-4344

黒部エムテック(株)
黒部市吉田200 ☎0765-54-8665

第一建設(株)
黒部市飯沢1077 ☎0765-56-8125

北陸機材(株)
富山市綾田町1-6-22 ☎076-441-5411

黒部ライオンズクラブ
黒部市新牧野103 ファーストビル3F ☎0765-54-1026

(株)ニイカワポータル
黒部市新牧野152 ☎0765-54-5355

黒部金融協会

北陸銀行黒部支店
富山銀行黒部支店
黒部市信用農業協同組合
北陸労働金庫黒部支店
富山第一銀行黒部支店
にいかわ信用金庫桜井支店
黒部農業協同組合

北日本新聞社

富山市安住町2-14 ☎076-445-3300

夢のつばさ。

かなわない夢はありません。
純粹に、ひたむきに、かたくなに、
追い求めることが大切なのです。
ともにかなえましょう、明日の夢を。



YKK株式会社